

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 8日

1. 職名・氏名 助教 上谷祐子

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井大学、授与年 2021年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護学（1単位 毎年開催）学部3年次生（2022年～） 小児看護学演習（1単位 毎年開催）学部3年自制（2024年～）
②内容・ねらい さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 小児看護学では主に小児特有の疾患について事例を通して学習する。今年度は悪性腫瘍の項目を担当した。看護過程の展開では、3事例展開している。学生の事例展開のグループワークにおいて、学生自身が疾患を理解し、現在の状態と今後の経過をアセスメントできるように具体的な考え方の視点や、教科書等を参考にする際のポイントを伝え、よりよいグループワークが進行するようにアドバイスを行っていった。また、小児看護技術演習を担当し、学生が実習を具体的にイメージできるように視点をもって、また実習で実際に使えるようにポイントを伝える工夫を行った。ホスピタルプレイスペシャリスト、保育士をゲストスピーカーにお招きし実際の子どもとの関わりの場面をご教示いただいた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護学実習（2単位 毎年開催） 学部3年次生（2022年～）
② 内容・ねらい 子どもの成長発達、及び健康障害が子どもの身体・こころ・社会関係に及ぼす影響を理解し、より健康に育まれるよう子どものもてる力を活かしながら看護を実践し、評価する看護実践能力の習得を到達目標とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 小児看護学実習では4日間の小児病棟での実習を通して、看護事例展開と発達を意図した子どもとの関わり方を学ぶ。また、2日間の保育園または福祉型児童発達支援センターでの実習を通して地域社会で生活する子どもとの関わりを通して看護の役割を学んでいる。事例展開では、まずは疾患を理解することを目的に、事前学習を行い、アセスメントに必要な情報が何かを考えた上で情報収集することを意識した。そして子どもの状態をアセスメントするために必要な情報を正確に観察・測定することの必要性を理解できるよう努めた。また、臨床の場では特に報告・相談が必要になることを踏まえ、学生が自分から相談できるよう、学生が伝えやすい環境作りを意識した。実習の最後には教員との面談を通して、小児看護実習を振り返り、学生がよりよくなるよう次の実習での目標を設定できるように関わっている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護発展セミナー（2単位 毎年開催） 学部4年次生（2022年～）
② 内容・ねらい 既習の小児看護学関連の学習内容を踏まえた上で、学生自身がテーマを選択し、小児看護の専門性を探求する。具体的には、子どもとその家族に関連するテーマを選択し、医療・保健・福祉・教育等の連携の視点で文献検討を行う。また、文献検討の結果をプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める。

③本年度は学生の発表会に参加し、質問を通して学びが深まるように努めた。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業研究（3単位 毎年開催） 学部4年次生（2022年～）

② 内容・ねらい
自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につけることを目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
今年度は、2名の学生を主に担当し、文献検討論文の作成を行った。また、1名の学生は学会発表を行い、研究の成果を社会に公表した。

(2)その他の教育活動

内容

・福井大学医学部看護学科に対して「医療的ケアの必要な子どもの支援」をテーマに講義を担当した。（2021年～）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	
	【0 本】
②学術論文（査読あり）	
	【0 本】
③その他論文（査読なし）	
	【0 本】
④学会発表等	
1. 統合失調症における双生児の遺伝的要因と環境要因の関連：文献検討研究、コ・メディカル形態機能学会第 23 回学術集会、（2025 年 9 月 20・21 日）、＊水谷心、 <u>上谷祐子</u> 、金粕仁美	
	【1 件】
⑤その他の公表実績	
	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

- ・ふくいこどもホスピス活動（2022年6月～）
- ・AHA ヘルスケアプロバイダー（2016年～）
- ・AHA PALS プロバイダー（2016年～）
- ・新生児蘇生法講習会「専門（S）」コース修了（2022年10月～）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- ・実習検討委員会（2022年6月～）
- ・SIM・ICT推進WG（2025年4月～）

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など